

# ふくよか



## 目次 CONTENTS

### p2 ...企業長より

・ロコモティブシンドロームにならないために

### p3 ...退職院長あいさつ

### p4 ...特集① RIMCAS就航式

### p5 ...特集② 経営分析班より

・令和2年度診療報酬改定  
～地域包括ケア病棟入院料について～

### p6,7...その他

- ・キャリア開発委員会
- ・壱岐病院5周年式典
- ・へき地医療貢献者表彰

### p8...Break Time

- ・昭和という時代



# ロコモティブ・シンドロームに ならないために

企業長 米倉 正大

長崎県は2年前から健康寿命日本一を目指し、いろいろな施策を行っています。世の中においても、平均寿命はなお延びていくという予測から、人生80年から100年時代の到来に向けて、人生設計を行うような報道が目立っています。これを受け国は、「人生100年時代構想会議」を立ち上げ、人生100年時代を見据えた経済社会システムを作り上げるための政策のガイドデザインを検討しています。

日本人の死因の第1位はがん、次いで脳卒中、心臓病、そして肺炎、老衰となっています。ここ10年、がんに対する治療法は進み、完治や緩解に持つていける人が飛躍的に増加しました。心臓病や脳卒中も予防法が進み、今後減少していくことは確かです。このように考えると、相対的に4、5位の肺炎や老衰の割合が増え、数十年後には死因の上位2位を占めることも予想されます。若いころから身体を鍛え

ておかないと、将来肺炎や老衰で亡くなるかもしれないという考えが、これからは当たり前になってくるかもしれません。

最近「ロコモティブ・シンドローム」という言葉が聞くようになりました。ロコモティブとは「運動する」という意味です。直訳すると「運動症候群」ということになりましたが、これでは意味不明ですね。ロコモティブ・シンドロームとは、『筋肉や骨が衰弱化して運動機能が低下し要介護となるリスクが高い』状態を総称して使う言葉です。これを医療で防止することはできません。個人が元気な時から運動を習慣づけ、筋肉や骨を鍛えておくことが大切なのです。

体を動かす方法は人それぞれです。野球、サッカー、テニス、ゴルフ、山登りや、家庭菜園などで、若いころから身体を自然に鍛えている人もいますが、歳をとってくるとこれらの機会

が少なくなり、仕事の忙しさにかまけて運動の頻度が少なくなってきました。ジムに通って本格的に鍛えるという方法もあるのですが、続けるのは非常に根気がいります。一番手っ取り早く、かつ飽きないのは、歩く習慣をつけることだと言われています。仕事をしていると、毎日足が疲れてしまいますが、時間を見つけて散歩し、基礎体力を養うのです。車社会で歩くことが億劫になっている現代、歩くことが100年人生を楽しむ方法ではないでしょうか。

「ピンピンコロリ」の終末は、理想的な死を迎える言葉としてよく使われますが、その割合は、統計的には5%前後と言われており、20人に1人という狭き門です。普段からの病気の予防はもちろん大切ですが、いざ病気になったときにロコモティブ・シンドロームにならないよう、若い時から鍛えておけば、おのずと健康寿命は延びていき、ピンピンコロリの割合は今以上に多くなってくるでしょう。

意外に思われるかもしれませんが、統計学的には長崎県離島における健康寿命が短く、県全体の平均を下げているというデータがあります。地域に医療提供をしている私たち医療





おつかれ  
さまでした

令和2年3月末で退職された院長先生方から、お言葉をいただきました。

### 長崎県精神医療センター 高橋 克朗 院長



「蝶々と韃靼(だつたん)海峡」  
退職にあたり本誌に一文草するようにとのこと。寝しなに往時を顧みて、浮かんできたのは安西冬衛の短詩でした。  
てふてふが一匹韃靼海峡を渡って行った。

(※てふてふ…蝶々)

旧県立大村病院赴任時の心境であり、表題の所以です。そのうち、あるユマニストの箴言を自らに課しました。ジョルジュ・デュアメル「文學の宿命」から引きます。ラブレール研究で知られる渡邊一夫の名譯です(旧仮名・旧字体のまま、適宜改変)。

汝の額をどんなに擦つたところで、どちらの側にも紅葉が散らぬやうにすることはできない。他人の仕事に容喙してはならない。汝の行く道に居る人々を肘で推しのけてはならない。何人であれ汝が得をするかしないかによつてすべてを判断してはならない。

言うは易く行うは難し。自責の念に駆られ続けた日々が、いま、終わろうとしている。花発多風雨/人生足別離(于武陵)

### 長崎県島原病院 徳永 能治 院長



島原病院には、研修医終了後1年間、専門医試験後3年間、そして18年前に計3回お世話になりました。島原病院が、これまでの諸先輩の皆様のためゆみない努力で、より良い変化を常に遂げていることを実感し、誇らしく思っております。

当院の仕事においては、赴任のたび、また各年代につれ、自身の意気込みや目標を変えることができました。また地域の中でも多くの皆様と交友を深めることができ、いろいろなことを教えていただきました。あつという間に退職の時を迎え、大変充実した、しかも楽しい日々でした。心より感謝申し上げます。

### 長崎県五島中央病院 村瀬 邦彦 院長



2020年3月31日で五島中央病院の院長職を辞することになりました。2003年4月に長崎県離島医療圏組合中対馬病院に赴任し11年間勤務の後、2014年の10月から五島中央病院の院長として5年6か月の勤務となりました。院長としての5年6か月の間の思い出として残っているのは、院内保育所と独身寮C棟の完成式と思います。働き方改革がいま日本で大きな問題として議論されていますが、働き方の改革の前にすべきことが院内環境の整備であり、乳・幼児を抱えた職員にとって働きやすいように職場環境を整えることを目標にし、院長任期中に達成できたことが私の誇りだと考えています。今までお世話になりました。

### 長崎県上対馬病院 立花 一憲 院長



昭和56年(1981年)長崎県離島医療圏組合厳原病院に就職以来、上五島病院、上対馬病院、対馬いづはら病院、長崎県病院企業団上対馬病院と39年間にわたり長崎県の離島医療に携わってきました。その間、多くの方々のご支援で今日まで勤務することができました。お世話になった皆様方に心から感謝申し上げます。対馬出身でもともと対馬で医療を行いたいと思っていました。今後も、対馬で暮らし、対馬の地域医療にいくらかでもお手伝いできればと考えています。大変長い間お世話になりました。ありがとうございました。今後の長崎県病院企業団の充実と発展を祈念いたします。

Zoom up!

特集①

リムキヤス

## RIMCAS 就航式

R2.4.6(月)実施

令和2年4月6日(月)から、本土病院等からの離島等の企業団病院への医師派遣と患者の下り搬送を行う、離島等医療連携ヘリ(RIMCAS)が運航を開始しました。令和2年度当初は毎週月・火・木と毎月第2金曜日の運航予定です。

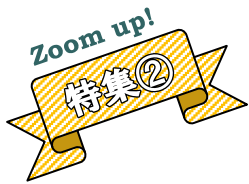
また、運航初日には長崎空港のRIMCASヘリ格納庫兼運航管理事務所に、長崎離島医師搬送システム(NIMAS)を運航していた、公益社団法人地域医療振興協会の立花一幸市立大村市民病院管理者をお迎えして就航式を行い、立花管理者から米倉企業長に格納庫の鍵の引継ぎがされました。

この格納庫は事業の引継ぎに伴い地域医療振興協会から企業団に無償譲渡していただいたものです。

地域医療振興協会には当面の間、運航調整業務も実施していただくこととなり、協力をいただきながらRIMCASを運航していきます。







# 令和2年度診療報酬改定 ～地域包括ケア病棟入院料について～

地域包括ケア病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料を含む。以下同様）は次の機能を有して、地域包括ケアシステムを支える役割を担う病棟・病室を評価する特定入院料として創設されました。

- 急性期病床からの患者の受け入れ（post acute 機能）
- 在宅や施設等で療養する患者が急変した場合等の受け入れ（sub acute 機能）
- 在宅復帰支援

しかし、現状は各病院は《post acute》に偏っているとして、令和2年度診療報酬改定において次のとおり変更されました。

## <令和2年度診療報酬改定での変更点>



- \* 許可病床数400床以上の病院に設置する「地域包括ケア病棟」について、入院患者のうち同一医療機関内の一般病棟から転棟した患者の割合が6割以上である場合に入院料を減額（1割減算）する
- \* 許可病床数400床以上の病院について、地域包括ケア病棟の新設を認めない（ただし既に保有する地域包括ケア病棟は維持できる）
- \* 同一保険医療機関内のDPC病棟から地域包括ケア病棟（病棟単位）に転棟した患者について、DPC点数表の入院期間Ⅱまでの間、DPC点数を算定する。（病室単位の地域包括ケア病床へは従来通り入院期間ⅢまではDPC点数を算定）
- \* 地域包括ケア病棟入院料1・3の実績に係る基準を見直す
- \* 地域包括ケア病棟入院料の施設基準において「入退院支援・地域連携業務を担う部門の設置」を要件とする
- \* 地域包括ケア病棟における疾患別リハビリテーション提供について「患者の入棟時に測定したADLスコア結果等を参考にリハビリの必要性を判断すること」を要件とする
- \* 地域包括ケア病棟入院料の施設基準において「適切な意思決定支援に関する指針（いわゆるACP）を定めていること」を要件とする
- \* 重症度、医療・看護必要度Ⅰ 14%以上又は重症度、医療・看護必要度Ⅱ 11%以上に基準を上げる
- \* 地域包括ケア病棟入院料1・3が届け出られる離島等の病院の病床規模を280床未満に拡大する



令和2年度診療報酬改定 Ⅱ-1 医療機能や患者の状況に応じた入院医療の評価 一歩、先

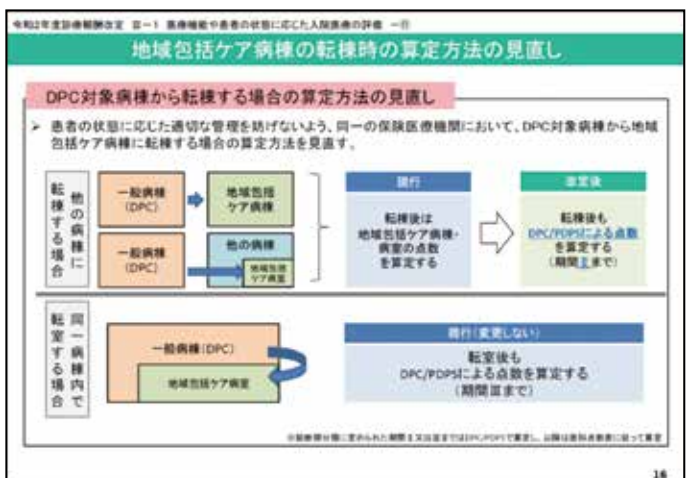
### 地域包括ケア病棟入院料の施設基準の見直し

#### 地域包括ケアに係る実績要件の見直し

入院料（管理料）1・3に係る実績について、以下のとおり見直し。

	移行	変更後
急性期から入院した患者割合	1割以上（10床未満の病室は2割以上）	1割以上（10床未満の病室は3割以上）
在宅療養からの緊急患者の受け入れ（3月）	3人以上	5人以上
在宅療養等の提供	以下のうちいずれか2つ以上を満たすこと 在宅療養訪問診療（3月） 20回以上	以下のうちいずれか2つ以上を満たすこと 在宅療養訪問診療（3月） 20回以上
	在宅療養訪問看護、看護科等の実定員数、同一敷地内の訪問看護ステーションにおける訪問看護士実定員数等の実定員数（3月） 10人以上、70%以上	在宅療養訪問看護（看護科等）の実定員数（3月） 10人以上 併せて訪問看護ステーションにおける訪問看護士実定員数等の実定員数（3月） 20人以上
	関係型連携共同診療の実定員数（3月） 10回以上	10回以上
	同一敷地内の事業所で分譲サービスを提供していること	併設の事業所が介護や一時的な提供業務を行っていること
	-	在宅療養訪問（カンパニオン）・看護管理料の実定員数（3月） 20回以上
-	遠隔医療利用診療料の実定員数（3月） 10回以上	

※併設とは当該診療科等と同一敷地内又は隣接する敷地内にあること



# 看護人材育成・キャリア開発委員会臨時会in壱岐

令和元年9月より発足した看護人材育成・キャリア開発委員会についてお伝えします。



△米城副院長による講義



グループワークの様子▷



## 委員からメッセージ

「看護人材育成・キャリア開発委員会（臨時委員会in壱岐）に参加して」

壱岐病院 看護師長  
感染管理認定看護師 堤 真粧美

長崎県病院企業団では、令和元年度から新たに看護人材育成・キャリア開発委員会プロジェクトが発足し、私は壱岐病院看護師長として、また感染管理認定看護師として構成委員の役割をいただきました。初回会議での構成委員の方々と顔合わせ時は、各施設の職責や組織内での役割の違い等から多少の戸惑いを感じました。翻って各施設の委員の方々と企業団に今後どのような人材が必要なのか、どうしたら今の貴重な人材が、より地域で自ら輝きを放つ看護師になるためにサポートできるかなど、職歴や職位・施設の垣根を越えて意見交換ができるようになりました。

今年1月には壱岐病院で臨時委員会が開催されました。「人材育成プログラム作成に向けてのプロセス」をテーマにレクチャーを受け、各施設の看護部教育体制、および企業団看護部教育の統一を視野に入れたキャリアプログラム（クリニカルラダー）開発について討議しました。看護師人材育成は看護の根幹でもあり、企業団看護部にとっても看護の質と看護実践力の向上、およびチーム医療の推進にも繋がることが期待されます。

この委員会が発足したことは、私自身の看護教育の在り方を顧みる機会ともなりました。専従の感染管理認定看護師として、専門分野のリンクナースや後継者の育成・教育プログラムの策定を行い、委員会の構成委員としては、企業団看護部教育に寄与していきます。

おわりに、現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染が国内の至るところで感染者報告がなされ、目に見えないウイルスに誰もが不安を抱かずにはいられない毎日です。長崎県病院企業団の医療機関は離島医療を支える指定医療機関として、その対策に思案され煩雑な毎日かと推察いたします。感染管理認定看護師の立場から、冷静に可能な限り万全な対策で備えつつ感染の早期終息を願うばかりです。



## ～長崎県病院企業団加入5周年記念感謝の集い～

### 長崎県壱岐病院

令和2年2月22日(土)に壱岐市において、壱岐病院が病院企業団に加入して5周年を迎えることを記念し、感謝の集いが開催されました。

まず、開催主催者である白川市長の挨拶があり、来賓として長崎県知事(黒崎壱岐振興局長代読)と企業長から祝辞が述べられました。

その後、壱岐病院の企業団加入及びその後の病院運営にご尽力された向原院長と米城特命副院長へ壱岐市長から感謝状及び記念品贈呈がありました。



## 対馬病院 永尾 修二診療部長が へき地医療貢献者表彰を受賞されました



永尾診療部長は上五島や対馬にて15年以上 離島医療・地域医療へ貢献され、この度その功績が認められ受賞となりました。

おめでとうございます。

# Break Time

## 「昭和という時代」

元号が令和となって、1年が過ぎようとしていますが、3月まで放送されていた朝の連続テレビ小説では、私が生まれ、幼少期を過ごした昭和30年から50年ごろの時代が映し出されていました。今回は、昭和という時代を、特に家庭での生活を中心に振り返ってみたいと思います。

まず、トイレです。今は水洗でシャワートイレが当たり前ですが、私が幼少期の頃は、汲み取り和式のトイレでした。汲み取り式なので、便器には木の蓋があり、それを取って横に置いて使用していました。トイレットペーパーではなく、長方形の箱に「ちり紙」を置いて使っていました。田舎のじいちゃん宅に行くと、母屋と便所が別棟になっており、夜は1人でトイレに行くのが恐くて、なるべく行かないように我慢していたことを覚えています。

次に、お風呂です。今はどこの家庭にも大抵ありますが、昔は家に風呂がある方が珍しく、みんな銭湯に行っていました。銭湯で風呂上りに飲む、リンゴジュースやコーヒー牛乳の味は格別でした。銭湯なので毎日に行くことが出来ず、夏場は週3回、冬場は週2回ぐらいのペースで銭湯に行っていました。夏場はよく汗をかくので、よく自宅で金タライにお湯をいれて行水をしていました。

次に、電化製品ですが、たくさんあるので、いわゆる白物家電を中心にお話したいと思います。冷蔵庫は、今みたいに冷蔵庫、冷凍庫、野菜室みたいに部屋が分かれてなく、ひとつのボックスのなかに製氷皿がありました。ビジネスホテルにある冷蔵庫を少し大きくしたようなイメージです。アイスクリームが保存（冷凍）出来なかったことが悲しかったです。

洗濯機は、今は全自動やドラム式ですが、私の幼少期の頃は、写真にもあるように洗濯槽と脱水層が分かれた二層式の洗濯機でした。洗濯し、脱水し、すすぎし、また脱水と、洗濯物を洗濯槽と脱水槽との間で行き来させないといけません。冬の寒い時に濡れた衣類を触る母の姿を思い出します。

白物家電ではありませんが、テレビは、現在は液晶テレビですが、昔はブラウン管テレビで、スイッチを入れて数十秒待って映像が出てきました。当然、カラーではなく白黒でした。チャンネルもダイヤル式で、VHFのみで、UHFはコンバーターをテレビ本体にのせて見ていました。

私が小さいころは、明治、大正、昭和と時代が流れ、明治は遥か遠い時代というイメージがありました。令和生まれの方が増え、昭和という時代が我々のイメージする明治みたいになるのが少し悲しく思います。

(文：副企業長 上田 彰二)



実家にある二層式洗濯機

## 編集後記

このたび人事異動で5名の職員が本部を去ることとなりました。退職して県に戻られる中村総務部長をはじめ、長い間本企業団を支えてくださった方々ということで、別れを惜しむばかりです。

皆様の新天地でのご活躍に期待しつつ、引き続き本部に残る職員で力を合わせて頑張っていきたいと思います！



ふくよか

～「ふくよか」の由来～  
医療人として患者さんに寄り添った会話が自然と出てくるような能力をつけてほしいとの企業長からの願いが込められています。

令和2年4月発行  
編集・発行／長崎県病院企業団本部  
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階  
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759  
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp  
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>



長崎県病院企業団

検索